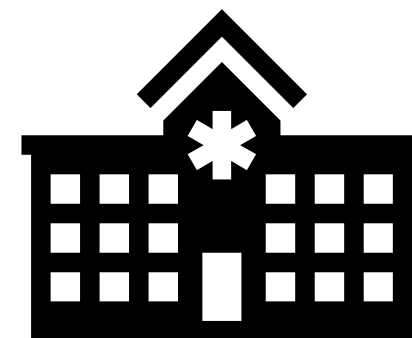


全患者にすべきこと

# 医療施設で必要な感染予防策



- 全患者に対し「標準予防策」
- リスクが高い場所ゆえに、たとえ感染患者が紛れ込んでいても伝播を防ぐことが可能な予め実施していく対策
- COVID-19の出現で、より一層この考えが大切に

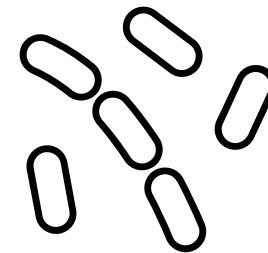
# 標準予防策の内容

- **適切な手指衛生**：全患者に対し実施
  - **適切な個人防護具**の選択と使用：湿性生体物質に対し使用
  - 患者配置：隔離や導線の確保
  - 器材・器機等の洗浄・消毒・滅菌
  - 環境整備
  - リネンの取り扱い
  - 安全な注射手技
- など

# 標準予防策の重要な2要素

①感染の有無にかかわらず**全ての患者**を対象にして  
手指衛生

②**湿性生体物質**(汗を除く、体液、分泌物、損傷した皮膚、粘膜)は  
感染性があるとみなして対応する、こと  
個人防護具



# 標準予防策の質

- 標準予防策の質が高ければ、感染経路別予防策／隔離予防策へのウェイトを落とせる
- 標準予防策の質が低い場合に、過剰な感染対策への要求が生まれやすい

# 手指衛生

頻回にやればよい、というわけではない

- 適切なタイミング(5moments)

1. 患者への接触前
2. 清潔操作の前
3. 体液に暴露された後
4. 患者への接触後
5. 患者周辺環境への接触後



ハンドハイジーン研究会

<https://www.goodhandhygiene.jp/practice/5moments/>

# マスク

- 症状が有る時にマスクの着用(咳エチケット)
- 症状の有無に問わずマスクの着用(universal mask)
- 諸外国ではuniversal maskの中止が広がっている
- 社会全体のuniversal mask policyから  
限定した場所でのuniversal mask policyへ?



# 当院のマスクポリシー(5/8-)

- 患者は病院内ではuniversal maskを継続
- 医療者は患者に接する時はuniversal mask
- それ以外は咳エチケット  
ex. 会議、食事の際のマスク着用の緩和

→今後どれくらいの患者罹患と職員の職場離脱が起こるかを注視



# 手指衛生

- 以前想定されていたよりも、手を介した伝播は多くはない
- ただし、当院の事例では、手指衛生回数が多いと院内伝播が発生しても伝播総数が小さく済む
- 手指衛生が活発であることは  
感染対策への意識の差でもある

→ 継続して手指衛生を励行

